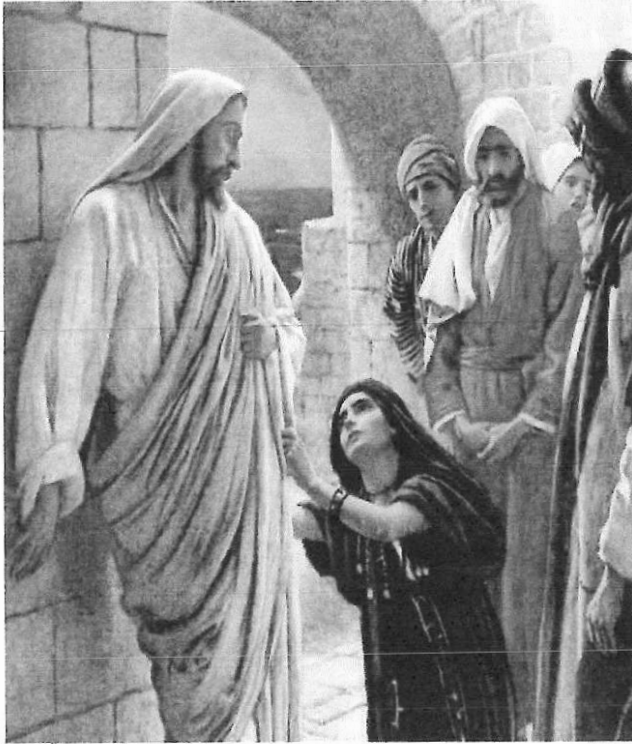


「パンくず」を求める信仰

マルコ7：24～37



1、イエス様はツロの地方（異邦人の町）へ向かわれた。

静養したかった？！

しかし、問題を抱えた母親がやってきた。

我が子が苦しんでいる姿を見る辛さ。身が切られるような苦しみの日々。

主よ。ダベデの子よ。私をあわれんでください。娘がひどく悪霊に取りつかれているのです。マタイ 15:22

イエス 「まず子どもたちに満腹させなければなりません。子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです。」

女 「主よ。そのとおりです。でも、食卓の下の小犬でも子どもたちのパンくずをいただきます。」

「子犬」「子どもたち」って誰のこと？／何故そう呼ぶの？／パンには限りがあるの？
もし自分がこの女性のように冷たくあしらわれたら、どんな反応をするだろうか？

「小犬に投げてやるのはよくないこと」

イエス様の突き放すような言葉に自尊心は傷ついた？！ しかし、あきらめなかった。
熱心だけでなく、へりくだらなければ出来ない願い求めだった。

*神の恵みと赦しに信頼するだけだという思い。

◆願いが一旦退けたことで、この人の信仰は、更に揺るぎないものになった。
感情、人間的なこだわりを破り捨てて、神の前に進みでなければ、受け取れない
ものがある。

イエス様はこの女性の信仰に感動！

「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。

マタイ 15 : 28

母親の信仰が娘をいやした

「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊にとりつかれているのです。」

マタイ 15 : 22

このような娘を持って、心が痛んで、苦しんでいる「私を憐れんでほしい」
困難で深刻な状況が、この女性を粘り強い祈りの人、信仰の人にした。
そして、イエス様に近づけられた。

2、デカポリス地方で、耳と言葉が不自由な人が癒された

- ・レギオンという悪霊の大軍に縛られ、墓場に住んでいた人が救われた地方。
- ・癒された男性の証しによって、キリストの愛が伝えられていた。
- ・一人の人が人生を取り戻すよりも、豚3千匹を惜しむような思いは
塗り替えられていた。

人々は、耳が聞こえず、口のきけない人を連れて来て、彼の上に手を置いてくださるよう、願った。

【32節】

イエス様はこの人だけを群集から連れ出された。

彼と個人的に出会うため。